

「第3回製剤機械技術研究会仲井賞」 受賞者の選考結果について

The 2003 Nakai Award of the Japan Society of Pharmaceutical Machinery and Engineering

仲井賞選考委員長 松田芳久

Yoshihisa MATSUDA

The Chair of the Selection Committee of the Nakai Award

会員の皆様には既にご承知のことと思いますが、本研究会では創立10周年を機に、一昨年から標記の賞を設定し、製剤機械技術の進歩と発展に貢献した個人又はグループの功績を顕揚しております。今回は昨年11月15日を締切日として会報で受賞候補者を募集しましたところ、今回は2件のご推薦がありました。これらの候補者につきまして、選考委員会では提出された推薦書及び関係資料を慎重かつ厳正に審査しました結果、下記のように受賞者として中道 孝一氏を決定し、去る2月17日に会長に報告いたしました。また、この結果は4月15日に開催された本会総会においても報告いたしました。授賞式は別に10月6日に開催される第13回大会において行われ、併せて受賞講演をしていただくこととなっております。

なお、今回からご応募にあたっては推薦書の形式をこれまでより簡略化し、お気軽に推薦していただけるよう、全面的に改めております。会員の皆様には、お近くのお知り合いで、本賞の受賞に相応しい業績をあげておられる方がおられましたら、ぜひ積極的にご推薦いただきますようお願いいたします。詳細につきましては、会報をご覧ください。事務局へお問い合わせ下さい。

記

- ・受賞者：中道 孝一氏（日本新薬株式会社）
- ・受賞テーマ：新しい製剤設計法としての加熱熔融混練技術の開発と応用展開
- ・授賞理由：本研究は、造粒装置であるエクストルーダーを用いて、難溶性医薬品の可溶化をはかるための製剤技術を確立したものである。本技術は、造粒工程のみで乾燥工程が不要であること、さらに溶媒を使用しないため、イニシャルコストとランニングコストが安価であるという利点を有している。したがって、医薬品製剤の非溶媒化と再現性が確保された固体分散体製法への応用の道を開いたものとして新規性が評価できる。なお、本技術に関しては既に10件を超える国内外特許を取得しており、一部の外国著名企業がこれらの特許を使用して各種製剤を製造しているという点に鑑みても、十分な実用性が認められる。本研究は新規性及び実用性に加えて、学術的価値も高く、さらに製剤の生産工程における発展性においても注目すべき優れた製剤技術開発であるといえる。以上のことから受賞の要件を十分に満たしており、「仲井賞」の授賞に値するものである。